

多摩支部会報

第55回全国校友千葉大会特別号
令和元年10月26発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 富麻 功
広報委 飯田光宏



令和の時代が変わって初めての全国校友千葉大会が、台風15号の爪痕が多く残り復旧復興慌ただしいなか、海外及び全国から1600名を超える校友が馳せ参じ、盛大に開催されました。多くの校友が一日も早い復旧・復興を願い、自分たちのできる事(=飲食・お土産・観光・義援金等々)をいたしました。台風接近で気をもむ中ここまで準備された関係者の甚大なるご努力に衷心からの感謝と御礼を申し上げます。

10月5日は「全国支部長・幹事長・地域支部長・本部員懇談会&前夜祭」が東京ディズニーランド協のホテルで開催され県単支部長等約200名の校友が参加しました。「懇談会」終了後、明治大学理事長 柳谷 孝氏(校友会顧問)から、『学校法人明治大学の現状と展望—140周年とその先を見据えて』と題する講演がありました。カラスライドと巧みな話術で思わず引き込まれ、少額でも「寄付」しようとさせる、大変素晴らしい講演でした。

10月6日は大会当日。海外及び全国各地から、

千葉県支部関係者の各支部を廻っての勧誘効果もあり、東京大会に迫るほどの多くの校友が集いました。森田千葉県知事は台風被害対応の時間を割き、防災服姿でビデオメッセージを寄せられ、ご臨席いただいた熊谷千葉市長からは、原稿を一切ご覧になることなく、「千葉という地名の由来」と明治大学&校友会及び明治大学OBの活躍を称えるお言葉を頂きました。

(理事長・学長等のご挨拶は後頁掲載参照)

「懇親会」はホテル ニューオオタニ幕張の巨大広間「鶴の間」と隣接するホワイエを使いテーブル・着席式でゆっくりと飲食し、語り合うことができました。「歓談」は鏡開きで始まり、次から次へと繰り出されるアトラクションは、どれも見応えがあり、まぐろの解体ショー、400kgの勇壮なお神輿担ぎ、腸わたに響く菖友会 大江戸助六太鼓、高校生による躍動感あふれるダンス、そして応援団&チアリーダーによる舞台一杯の技のご披露等々、あっぱれでした。

(記：広報 飯田)

歓迎のご挨拶 第55回 明治大学全国校友千葉大会実行委員会



大会実行委員会会長
(千葉県西部支部長)

前田 勝己



大会実行委員長
(千葉県東部支部長)

小関 道生

敬愛なる校友の皆様ようこそ千葉にお越し頂きました。

錦秋の好季に記念すべき第55回明治大学全国校友千葉大会を「やっさい! もっさい! おっさい!! 来たいよ 総の国 明治はひとつ」をキャッチフレーズに全国各地・海外から延べ1,500名を超える多数の校友をお迎えし開催出来ました。実行委員会を代表して心から歓迎申し上げます。

今大会は、東京大会以来8年ぶりの関東圏での全国大会であり、令和初の全国大会であります。オリンピックも参加することに意義があると申しますが、全国大会も参加することが、大学支援に繋がるものと考えます。

本日は森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長、須藤政弘明治大学連合父母会会長にご来賓としてご臨席賜り、また、柳谷孝学校法人明治大学理事長、土屋恵一郎明治大学長をはじめ、大学関係役職者各位のご列席の下、今大会を盛大に開催出来ますことは真に望外の喜びとするところであります。

千葉県は、明治大学建学の精神「権利自由」「独立自治」の礎を築いた3人の総長を輩出しております。この3人とは、茂原市出身で明治中学校初代校長と明治大学総長(5期)を務め、また、極東国際軍事裁判(東京裁判)で日本側弁護団団長を務めた鵜澤總明先生であり、一宮商業高校初代校長を務め、明治大学商学部を創設し千葉県一宮町をこよなく愛し本籍も千葉に移した志田鉦太郎先生であり、交通学で活躍した麻生平八郎先生であります。この歴代3総長の訓えを基に今大会は開催するものであります。去る7月27日には、大野伴睦元自民党副総裁を会長とする顕彰会等によって建立されました「鵜澤總明博士頌徳碑」の顕彰ツアーも実施致しました。謹んで御礼とご報

告を申し上げます。

また千葉県は全国屈指の漁獲量を誇る伊勢海老をはじめ海産物の宝庫であり、名産の落花生は健康食品・長寿菓で、近年特に心臓病、糖尿病等に良いとされております。懇親会のハイライトとして勝浦沖のマグロの解体ショーも企画しております。校友の皆様方に千葉ならではの料理と美味しい地酒を存分にお楽しみ頂ければと存じます。エクスカッションでは健康が御心配の方には全国一の医療設備を誇る亀田総合病院の見学、また天気が良ければ金運アップのホテル三日月の黄金風呂から眺める東京湾越しの富士山もご堪能頂けます。大変盛り沢山の企画であります、「何でもある!」千葉県の特質を生かしたご提案になっておりますので、十分お楽しみ頂けるものと確信しております。

大会会場の「幕張メッセ・国際会議場」は来年の東京オリンピック・パラリンピック競技が開催される隣接会場です。「明治がひとつになり」、校友が「ご一諸に」愛校心を発揮し、臍を固めてスクラムを組み「前へ!」「前へ!」と進めばその先には「栄光」が待っております。

今大会はご参加頂いた校友の皆様方に少しでも心に残る大会となりますよう、千葉県東西両支部の校友が一丸となり約3年前より準備を重ねて参りました。何かと不行き届きの点多々あろうかと存じますが、同じ「明治」に学びし校友ということでご容赦頂きたくお願い申し上げます。

結びに明治大学の益々の発展と、今大会を通して、この千葉の地から母校明治の存在感を一層高め、全国校友の絆の輪が更に強くなります事と、併せて皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、歓迎とご参加御礼のご挨拶とさせていただきます。

大会記念誌から転載

大会会長挨拶



明治大学校友会
会長

北野 大

全国校友千葉大会の開催、誠にありがとうございます。特に今回の全国大会は千葉県東部支部と西部支部の二つの異なる支部が力をあわせて開催にこぎつけていただき、まさに「明治は一つ」を実証していただきました。今回の開催に当たり小関道生支部長、前田勝己支部長をはじめとする両支部の皆様方のご尽力に対して、ここに深く感謝申し上げます

現在、母校明治大学は受験生の数からも明らかに、大いなる隆盛の時期を迎えております。昨今の社会からの明治大学の高い評価は、長年にわたる大学の教職員、経営陣、現役の学生等大学関係者の懸命な努力の賜物であります。更に加えて、校友である皆さま方のご活躍による社会的評価の結果でもあります。

毎年、千人近く、時には千人を大きく上回る校友を一同に集め、全国各地を巡って校友大会が開催できる大学は、わが国にはほとんど例がないのではないかと思います。今年で55回を迎えるこの全国校友大会の開催は、明治大学の誇りです。この輝かしい伝統と歴史を維持し続けているのは、明治大学の卒業生の母校愛に基づいているに違いありません。なぜ、明治大学の卒業生は、年を重ねれば重ねるほど益々母校に心を寄せるようになるのか、その理由は、明治大学の校風にあると思います。建学の精神は権利自由、独立自治であり、現代風に言う「個を強くする」の意味するところは、自分の考えをしっかりと持って自立し、他の多様な個性を認めながら自由に活動し、失敗を恐れずに「前へ」進むという明治魂のことです。明治大学の良さは、自由性と多様性にあります。

明治大学校友会の目的は会則にあるように、大学を支援し、その活動を通して卒業生同士の親睦を図るところにあります。良い学風を維持するためには、種々の価値観を持った学生が全国から、いや全世界から集まり、個をお互いに磨き合い、東亜の一角から世界に旅立っていくところにあります。これを支援するために、校友会は、地方からの志願者数を増やすための給付型奨学金「つなげ！“紫紺のたすき”奨学金」、更に経済的理由により修学が困難な学生に給費し、学業の継続を支援する校友会奨学金「前へ！」を創設しております。私たち校友には、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援する役割があります。校友の活躍・貢献により、明治大学の名声を上げることに寄与すること、及び、「明治ファミリー」として明治大学関係者が一致団結し、協力していくこと、それが向殿政男前会長の掲げるスローガン「明治はひとつ」の意味するところだと思います。

全国校友大会は、今後の校友会活動を益々躍進させていき、その中で母校を支援し、母校の発展に貢献することを再認識する絶好の機会です。今年、ここ千葉県で、“やっさい！もっさい！おっさい！！来たいよ総の国 明治はひとつ”をコンセプトとしたこの大会を、是非とも盛り上げていきましょう。

千葉大会の成功を、そしてご来場の皆様、関係各位の益々のご多幸と母校明治大学のさらなる発展を、心より祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

大会記念誌から転載

祝 辞



学校法人明治大学
理事長

柳谷 孝

第55回全国校友千葉大会が、北野校友会長、前田実行委員会会長、小関大会実行委員長をはじめ、校友会の皆様のご尽力により盛大に開催されますことを、心よりお祝いを申し上げます。また、全国の校友会の皆様におかれましては、日頃より本学に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、皆様ご承知のように、千葉県は、明治、大正、そして昭和にわたって本学の発展に貢献され、第二次世界大戦前後の日本の混迷期に総長として本学の復興に力を注いだ、鶴澤総明先生を育んだ地であります。『明治大学百年史』によりますと、鶴澤先生は1872年に千葉県茂原市で生を受け幼少期を過ごし、わずか13歳にして小学校の代用教員となり指導するなど、その聡明さは地域で知られた存在でありました。この地域は、のどかな農村地帯でありながらも熱心な学者による教育活動が草の根で行われており、鶴澤先生もこの地の私塾に入門して学問の研鑽に励みました。上京した後も学びを深め、30歳を待たずに明治法律学校の教壇に立ち、1912年には明治中学校の初代校長に、そして1934年には明治大学の総長に就任しました。一方、学外では弁護士としても活動され、自らの利害や世評を顧みず信念を貫いて行動する中で、本学へ予期せぬ影響が及ぶのを本意とせず、総長職を離れる時期もありました。しかし、聡明で清廉なお人柄により校友や教職員から再び本学の復興を託され、1955年に急逝されるその日まで、身命を賭して総長職を全うされたのです。そうした先生の深甚なるご尽力に、私達もこのたびの校友大会に際して改めて思いを致すところでありますが、来る2年後の創立140周

年の記念事業の一つとして、鶴澤先生のご功績と精神を次代へと継承すべく、本にまとめて発刊する運びであります。関係各位の協力を得て、先生の教育への情熱や本学への想いを丁寧に辿って執筆を進めてまいりますので、是非ご期待いただきたく存じます。

一方、視点を変えて県全体に目を向けますと、千葉県は、川と海に囲まれ、中央部には房総丘陵が広がり、水と緑に溢れた土地であります。また、アクアラインなど近隣からのアクセスの良さを生かして、多くの観光スポットを有し、中でも東京ディズニーリゾートと成田山新勝寺には、合わせて年間400万人強の人が訪れます。また、空の玄関口である成田国際空港を擁しており、2018年度には航空機の発着回数と旅客数が開港以来の最高記録を更新し、国際線旅客数も3500万人を超えるなど海外からの旅行者も多く訪れる県であります。

そうした様々な人達が出会い、来訪者に開かれた風土を持つ千葉県での校友大会の開催は、グローバルに教育研究活動を展開していく現在の明治大学に、まさに相応しい場所でありましょう。本大会には、全国そして世界から校友の皆様方が集まっています。熱い母校愛を胸に皆様方と大いに明治大学の未来を語り、高らかに校歌を斉唱できますことを心待ちにしております。

結びにあたり、母校明治大学がアジアそして世界のトップユニバーシティとして大きく飛躍できますよう、このたび募集を開始いたしました創立140周年記念事業募金をはじめ、更なるご支援をお願い申し上げますとともに、校友会の一層の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

大会記念誌から転載

祝 辞



明治大学
学 長

土屋 恵一郎

全国校友千葉大会の開催にあたり、心よりお祝いを申し上げますと共に、創立138周年を迎えた明治大学の現在と未来について、少し言葉を尽くしてみたいと思います。

千葉県のパウアンと幕張の二カ所で、全国校友千葉大会が開催されることは、千葉県が現在の明治大学にとっていかに大きな比重を占めているかを物語っています。今年度(2019年度)の志願者総数11万1755名の内、千葉県からの志願者数は約1万400名でした。また、関東一都三県出身の学生が、在校生の7割を占めている中で、千葉県出身の在校生は約3000名です。いずれの数字も千葉県出身者が全体の10パーセントを占めていることを示しています。

このことは同時に、明治大学の将来の課題も示しているのです。かつての全国大学の姿は、失われてきています。それは明治大学だけではなく、早稲田大学をはじめとする東京の大規模私立大学が抱えている共通の課題でもあります。さらに、政府が行った東京23区における私立大学の定員抑制策がいかに根拠のないものであるかを示しています。地方から東京へと学生が流入するのを規制することが政府の法案の趣旨でしたが、私立大学の現状を見れば、そんなことはまったく東京23区の私立大学にはあてはまらないのです。この定員抑制策が実質的には、東京の大規模私立大学から新しいプロジェクトに挑戦する力を奪い、ひいては、日本の活力を奪うことになるのは明らか

かです。現政府の愚行が日本から活力を奪っていく。過去の経験に学ぶことなく、いたずらに大学教育をいじって、地方創生のために何かをやっていますというポーズをつくる政府の政策は、東京の私立大学における大学改革の妨げ以外、何ものでもありません。

こうした状況の中で明治大学は、これから積極的に地方からの学生を募り、全国大学としての姿を取り戻す必要があります。全国の高校との連携を強化して、明治大学の地域拠点を形成していく必要があります。残念ながら、私の学長任期中に、この施策はできませんでした。校友子弟推薦入学制度についても検討を進めたかったのですが、まだできていません。全国に付属高校を作る計画はありますが、実現にはまだまだ時間がかかります。しかし、こうした政策は私のあとの次期学長の手によって実現していかなければなりません。

これまでの学長任期4年の間に、多くの地域の校友支部総会に出席をさせていただき、友情を深めることができました。任期を終えるにあたって、深く感謝申し上げますとともに、残された期間の中で全国の校友会がさらに強く維持されていくための方法を精一杯考え、継承いたして参ります。この全国校友千葉大会にて、校友の皆様と明治大学の未来、そして校友会の未来について語り合えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

大会記念誌から転載

記念講演 [16時～17時]

講演 「廃線危機を救ったいすみ鉄道前社長直伝『考え抜く力』 ～危機を乗り越える夢と戦略～」

講師 えちごトキめき鉄道株式会社 代表取締役社長
いすみ鉄道株式会社 前代表取締役社長 **鳥塚 亮氏**
(昭和60年 商学部卒)



[プロフィール]

昭和62年 大韓航空 入社
平成2年 プリティッシュエアウェイズ 入社
旅客運航部長
平成21年 いすみ鉄道株式会社
代表取締役社長 就任
平成30年 いすみ鉄道株式会社
任期満了につき退社
令和元年 えちごトキめき鉄道株式会社
代表取締役社長 就任



子供のころから乗り物好き。新幹線の運転士になるのが夢だったが国鉄赤字による採用中止で断念。一路航空業界へ。平成21年、プリティッシュエアウェイズ成田空港支店勤務時にいすみ鉄道社長公募に応募。123名の応募者の中から代表取締役社長に就任。ムーミン列車、訓練費用700万円自己負担の自社養成乗務員訓練生の採用、昭和の国鉄形ディーゼルカーの導入、イセエビ駅弁の開発、レストラン列車の運転などでいすみ鉄道と沿線地域を一躍全国区に。現在の観光列車ブームの礎を築く。平成30年には、NPO法人「おいしいローカル線をつくる会」を立ち上げ、「ローカル線を上手に使って地域に経済を呼び込むことで、地域も豊かになりましょう。」と地方再生に全国を駆け巡りノウハウを伝授。今秋、えちごトキめき鉄道社長公募に応募。81名の応募者の中から代表取締役社長に就任。



特別講演

大会前日開催の「支部長・幹事長・地域支部長・本部員懇談会」において、下記資料（表紙&裏表紙のみ転載）により大型スクリーンを使い、大変理解しやすい丁寧な講演がありました。長期ビジョンに基づく第2期中期計画の着実な実施状況や創立150周年を見据えた『次期長期ビジョン』への対応等有意義なお話でした。

和泉新校舎の椅子に寄付者の命名板の取付（一度に30万円以上、先着500席分）や教室に顕彰板の取付など募金協力要望がありました（Wは明治の4.8倍、Kは11.8倍実績）。

国際混住寮（グローバルヴィレッジ）開設、和泉新建築等着手、協定校拡大、倍増した海外留学生、出願前に可否決定の「おゝ明治 奨学金」等々知りたい内容満杯でした。



明治大学全国校友千葉大会に参加して



当麻 功
(多摩支部長 39商)

秋晴れの10月5日6日の二日間久しぶりに懐かしの千葉県を訪れました。特に幕張メッセは開発時からの関わりもありましたが、その激変ぶりと進化している様に変化が驚かされました。オリンピック・パラリンピックの開催を翌年に控え競技が行われる千葉県での全国大会開催は誠に時宜を得たことと思いました。

初日の、柳谷理事長の講演はわが明治大

学の未来をしっかりと見据え、教育研究のみでなく財務体質の一部もふくめて、140年を超えて150年200年と発展していける展望をお聞きし大変心強い思いがしました。二日目には、「廃線危機を救ったいすみ鉄道前社長の鳥塚氏の話は、参考になる点が多々ありました。地域の活性化が叫ばれている中多くの人々の共感を呼ぶものと感じました。二日間をどうして改めて感じることは、司会の渡辺正行さんはじめ多くの校友がいかに多くの世界で活躍しているかでした。今後ともこういうOBの方々を陰ながら応援し続けていきつつ、多摩支部も負けずに頑張っていこうと感じた次第でした。



全国校友大会初参加の感想



太田 東平
(多摩支部幹事長 40 政)

全国校友千葉大会は私にとって昨年の石川大会が台風の影響で参加出来なかった為、全国大会は実質初めての経験でした。初日の柳谷理事長の「明治大学の現状と展望」は母校に愛着を持つ校友が一番関心を持っている内容であり。また二日目の(前)いすみ鉄道鳥塚社長「廃線危機を救った考え抜く力、危機を乗り越える夢と戦略」の講演は一瞬現役時代に引き戻された心境で聞き入った次第です。両講演とも大会に相応しい内容であり、今後ともこの様な有意義な講演を是非聞かせて頂きたい。

大会全体の感想としては140周年を迎え

新しい校風の息吹が感じられ、たのもしく感じた。最終日のエクスカージョンには参加せず、山口からの遠来のクラスメイトと再会し、真名カントリークラブで晴天の下、土屋学長他100人超えの大コンペに参加、友人とも久しぶりに旧交を温める機会を得て、楽しい1泊3日の千葉大会を満喫することが出来ました。コンペでは我が友がベストグロ賞を頂き友人にとっても、この上ない記憶に残る大会であったと思われる。結びに第15号台風の爪痕が癒えぬ中、千葉大会が盛会裏に終えることが出来たのは、千葉支部の校友の皆様が一致団結した努力の賜物と感謝致します。有難うございました。



盟友の
沼尻さんと

第55回明治大学全国校友千葉大会

エクスカージョン（観光）「成田山新勝寺参拝と豪華うな重舌鼓の旅」に参加して

： 地域支部 土井隆夫



全国校友大会には、明治大学創立130周年の東京大会以来で、地方大会には近隣ということで千葉大会が初めての参加でした。

10/6小平から参加の馬場幹事長、小出幹事と3人で新小平駅を出発、直通で海浜幕張駅に9時前に着きバス乗り場のホテルグリーンタワー幕張で78名の校友が2台のバスに乗り出発しました。

真言宗智山派大本山成田山金剛王院新勝寺を参拝するのは初めてで境内の広さにはびっくりしました。成田山新勝寺の御本尊不動明王は、嵯峨天皇の勅願により弘法大師空海自ら敬刻して開眼し護摩法を修せられた尊像で、939年平将門が反乱を起こし、朱雀天皇の密勅受けた寛朝大僧正がこの尊像とともに関東に下り、下総の国成田の地で21日間平和祈願の御護摩を修めると兵乱は平定されこの地に新勝寺の寺号を賜って成田山が開山されたとあります。江戸時代に歌舞伎役者の初代市川團十郎が成田不動に帰依して「成田屋」の屋号を名乗り不動明王が登場する芝居を打ったこ

となどもあいまって、成田不動は庶民の信仰を集め、成田参拝が盛んとなったようです。

5人のガイドさんに15人程帯同し、総門（正門）、仁王門を入り、コンクリート造りの大本堂、豪華絢爛な三重塔がある境内があ



り、隣にそのまま移設された前の木造の本堂（釈迦堂）を参拝しました。当日は、運よく、大勢の消防関係者団体の参拝行列や御護摩導師様の入場行列に遭遇し幸運でした。

バスに乗り成田駅近くの川豊うなぎ店の座敷でうな重で昼食。参拝により身を清め、うなぎで精力をつけて、全国校友千葉大会会場の幕張メッセ国際会議場へと向かいました。

成田山新勝寺を思い出残る参拝ができ、「田舎が売り」の記念講演、アトラクション満開の懇親会と、身も心も満杯の千葉大会でした。千葉県東部・西部両支部様に大感謝です。

全国校友大会に、初めて参加して「明治はひとつ！」



こんにちは、立川地域支部支部長の石津智志（平2商）です。

私は、今回初めて全国の校友大会に参加させて頂きました。兎に角、びっくりしました。全国の、OB・OGが集まり、2000人規

模で会が行われている。

理事長、学長をはじめ、本校の関係者、父兄会、校友会など、充実した集いがある。このような大学は、ちょっと他には無いなと思いました。

若いときには気づきませんでした。が、「明治はひとつ!」「前へ」「権利自由」「独立自治」「やっぱり明治がNo.1」と自分の母校が誇らしく思えた体験でした。ありがとうございました。

第55回全国校友千葉大会に初参加して

日野地域支部

須藤 英一（昭44商卒・）



須藤氏

はっきり言ってすごい力ですね。

大学を卒業して今日70代になり、振り返ってみると明らかに企業戦士でしたね。私の場合、卒業後5～10年はOBという立場を利用しようとし（その後の空白がありますが）、当時は「商」が盛んで、忠実な校友ではありませんでした。今70代となり、

全国校友千葉大会に参加して

国立地域支部

沼尻 哲

（46年 商 国立）



恩師麻生平八郎先生の故郷（元総長・茂原市出身）でもある千葉県浦安・幕張で開催された第55回明治大学全国校友千葉大会 やっ

さい!もっさい!おっさ!!来たいよ総の国明治はひとつに行って参りました。近郊でもあり参加1,600名とか、多摩支部47名と例年になく大勢の参加でした。

前夜祭の北野大新校友会長のスピーチでは校友会の使命は母校の支援、母校の評価を高めること。そのために今後若い人・女性を視野に例えば講演会を3年サイクルから

あと何年この世にいられるかを思う時、小学校の同期も早や15人が欠けており、頭の良い順で他界しております。娘の主人の父親が同じ母校出身で、葬儀を行ったとき生花を頂き、私も香典ぐらい貰えるかと思いい校友会に復帰した次第です。今日まで55万人を輩出したということすごいい“うねり”を感じます。又、現役で活躍中ながら参加している方々とは、若干思いは違うと思いますが。

毎年、場所を変え全国を回るのは幹事も大変でしょうが、日本を知り、同じ価値観を持ち、一同に集まることは地元に対し、すごい“宣伝”にもなります。別に打算ではありませんが“共存共栄”を得、いずれは自分のものとして帰ってくることでしょ

う。一生人間は勉強し、“切磋琢磨”をすることが必要でしょう。世の中全て“持ちつ持たれり”だと思います。

毎年1回開き若いOBの呼び水にしたい。そして全国大会はこれに加えOBの去就、エクスカージョンであります。

今回でバトンタッチの土屋恵一郎学長は校友子弟推薦入学制度の導入、付属高校の全国展開が残された課題だと云われていました。

講演その1は柳谷孝理事長の「学校法人明治大学の現状と展望—創立140周年とその先を見据えて—」でありました。①2021年11月1日に創立140周年式典を行うこと②和泉第2校舎の後に新教育棟の建設（2022年3月竣工）③海外留学の推進…4年前の2倍超④グローバル・ヴィレッジの竣工⑤新奨学金制度スタート⑥長期安定のため助成依頼。等最新の明大事情を伺うことが出来ました。（11ページ上段へ続く）

講演その2は記念講演 いすみ鉄道元社長 鳥塚 亮 (S60・商) による

「廃線危機を救ったいすみ鉄道前社長直伝『考え抜く力』～危機を乗り越える夢と戦略～」



いすみ鉄道ムーミン列車 (HPより)

123名の公募からスタート、創造力と実行力さらに企画力を縦横無尽に駆使しマイナーからメジャーにしたすばらしい物語。

ムーミン列車・昭和の国鉄DLキハ28の導入 食ではイセエビ駅弁・イタリアンのレストラン列車等々地元とコラボ、アイデアを共有、マスメディアにも乗せ、森進一の襟裳岬ではありませんが「襟裳の一春は何もない春でーす。」と何もないことを売りに知恵と汗を出したわけです。更にイタリアンの『サイゼリヤ』の正垣社長と切り口・攻め口は同じ考え方・・・

金はかけず『どうしたら女の子が来てくれるか』を5W1H。今日明日ではなく一年後を見据えたスパン…男の子は必ずついてきます。また鉄道には強力な哲ちゃんではなく鉄ちゃんがあります。レトロな気動車、今は見られなくなってしまった単線でのタブレット交換、撮り鉄のための配慮(臨時停車)等枚挙に遑がありません。駅員・地元の方々の大変な見送り。どれもやれば出来る。やれば出来た。久方ぶりのわくわく気分になりました。

アトラクションは千葉東西両支部の圧巻のお・も・て・な・しで盛りだくさん。

司会に落研OB渡辺正行氏 (S53・経営) 初代チアリーダの高畑百合子氏 (H15・法)。応援団もフルメンバー・マンドリン倶楽部 竹島宏 (H13・経営) の東京ラブソディ、・グリークラブ・高校生ダンス・銚子はね太鼓・さらに80キロのマグロ解体ショー

最長3時間でしたがあつというまででした。来賓祝辞ではすばらしい早稲田OB熊谷千葉市長の心温まるご挨拶。川勝平太静岡県知事を思いだし早稲田っていいな。折角の千葉詣で。前日は葛西臨海水族館マグロ80匹の群泳 180kgが一番かな。

翌日は立川の曹さんと鉄道乗り継ぎ三昧。房総横断記念乗車券を購入 小湊鉄道 蒸気で走る里山トロッコ 窓なし列車 行先サボと帽子を持った女性車掌がカメラマンになつたり沿線の名物を売りに来たり 交換駅である里見では近隣のご婦人方が湯茶の接待・サンドイッチ・お餅・おにぎり・お弁当・焼きそばに販売 出発はみんな笑顔で行ってらっしゃい。

飯給(いたぶ)では世界一大きなトイレ。上総中野からは鳥塚社長のアイデア詰まっていたいすみ鉄道。国吉での地域住民のおもてなし。大多喜 房総中央鉄道館 特急のサボ購入。

撮り鉄の絶景ポイント・大多喜城を見上げる場所では一時停車。渡辺正行実家の紹介。

レストラン弁当 ホテルシェフ手作り限定10個のイタリアン弁当、運よくゲット800円沿線住民のお・も・て・な・し。

旧交も深められ、最新明大事情も知り、何よりも肩を組んでの校歌。

2020年の香川大会(9月5.6日) 2021年の福島大会(11月6.7日)まで参加すると20回となる。そこまでは頑張ろうと思っている。

了



おいでませ
お接待の心
うどん県。



第56回 明治大学全国校友

香川大会

2020.9/5(土)・6(日)

9/5(土)

支部長・幹事長・地域支部長・本部員懇談会

【会場】JRホテル クレメント高松

前夜祭

【会場】JRホテル クレメント高松

9/6(日)

記念式典・記念講演会

【会場】サンポートホール高松(大ホール)

懇親会

【会場】JRホテル クレメント高松

主催/明治大学全国校友香川大会実行委員会

【お問い合わせ窓口】JTB高松支店 〒760-0028 高松市鍛冶屋町7-6 TEL.087-822-0033

編集後書 全国校友千葉大会が盛会裏に終了しました。関係者のお話だと1600余名の校友が韓国・台湾の支部を含め全国から参集したそうです。東京都多摩支部からも「参加名簿」上では47名が申し込まれていました。

前日の「懇談会」では、理事長から「明治大学の現状と課題」という演題で、実に詳しく分かりやすいお話があり、母校賛助という校友会の目的を改めて認識した次第です。大会当日の懇親会は、ホテルニューオオタニ幕張の巨大会場を揺るがすほどのアトラクションが連続し、は二重三重の輪に組んで「校歌」の大合唱！香川大会へ襷が渡されました。千葉の皆様、ありがとうございました。

(東京都多摩支部広報委員会)